

	ファッションデザイン論 Theory of Fashion Design	単位数	2
		必選区分	FD必修/ID・VD選択
開講学科	生活デザイン学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	中谷 友机子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>ファッションデザインとは何か。ファッションデザインにおける意義・重要性・役割、さらに、影響などを、学生自ら考察する授業目的である。また、学生が、人と衣服、社会とファッションの関わりをデザインの視点から研究し、時代の変遷とともに変容していったデザインの位置づけ、消費社会の特徴やデザインの価値を理解していくことを到達目標としている。学外授業では、展覧会などを視察し、現在におけるファッションデザインの多様性と可能性を学ぶ。（※美術展等の開催時期により授業計画が移動する場合がある。）</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：アパレル企業でファッションデザイン製作に携わり、企画会社設立後、様々なファッションデザインを消費者に提供する活動を行った経験あり。】 本授業では、アパレル・インテリア・ビジュアルなどの広義なデザインの中から、特にアパレルファッションデザインに焦点をおき、社会や文化から影響されたデザインや流行、産業の変遷とともに誕生・変容したデザインの特徴などを、学生自ら考察・研究して理解を深める授業である。授業の前半は、ファッションデザインの様々な定義を認識し、デザインと社会・文化・流行などの関係を考察する。後半では、オートクチュールの誕生から現在の至るまで、クリエイター達が手掛けたファッションデザインを学生自ら研究し、FD, ID, VD分野の視点からデザインの価値や理解を深めてもらいたい。 【SDGs：⑤, ⑨】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① なぜ衣服を着るのか ② ファッションデザインの要素と定義 ③ アパレルファッションと色彩の関係 ④ ブランドとデザイン力の関係性 ⑤ ファッションと流行の関わり ⑥ ファッションと文化の関わり ⑦ ファッションと世代の関わり ⑧ 若者ストリートファッションの消費心理 ⑨ ユニバーサルデザイン ⑩ 美術展見学 ⑪ 近代消費社会の誕生とオートクチュールの誕生 ⑫ 身体性とデザイン（ポアレとヴィオネ） ⑬ 産業とデザイン（シャネルとディオール） ⑭ 構成とデザイン（三宅一生と川久保玲） ⑮ アートとデザイン（アンディ・ウォーホル等）／まとめ 		
予復習等	<p>【予習】 各回の授業テーマにおいて、本や情報などの調査をしておくのが望ましい。 【復習】 本・情報などで自主的に研究・考察して、より充実した研究内容にすること。</p>		
評価方法	受講態度20%、グループ研究と発表50%、研究レポート30%		
履修条件	衣料管理士必修。外部の催事・美術展の見学は交通費（有料の場合は入場料）が必要。		
教科書	中谷友机子『ファッション業界の流通・社会・文化・世代』日本国語国学研究所		
参考書	北山晴一『衣服は肉体に何を与えたか』朝日新聞社、実川元子『ココ・シャネル』理論社ほか、講義にて紹介する。		